

2. 事業の概要

(1) 教育理念

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会の教育:「まことの自由への教育」



コングレガシオン・ド・ノートルダムの学校は、1658年に始まる教育の歴史をもち、子どもたちが生きる意味を見出し、強い意志・勇気・愛をもって、社会の変革に寄与できる、誠実で品位ある人になるように育て、世に送り出そうとしている。すべての教育活動は、子どもたちが自分に与えられた使命に気づき、自己実現をはかり、未来を拓いて行く力を育てることを目指している。

- ・ イエス・キリストの愛に学ぶ
- ・ 卓越した学問の追究を目ざす
- ・ 神・他者・自分・自然と対話する心を育む
- ・ 義と平和の実現のために働く人を育てる

(2) 教育重点目標

〔福島部門〕

1. 教育内容の充実及び向上並びに教育環境の整備
2. 募集・広報活動の活性化及び入学定員の充足
3. 桜の聖母学院教育改革計画の立案・検討及び将来構想の検討

〔調布部門〕

1. 園児募集の強化及び2歳・満3歳児保育の定着
2. 人事監事及び労務管理の整備並びに働き方改革の推進
3. 教職員の研修機会の拡大及び教育内容の充実

(3) 令和6年度重点活動計画・活動報告

別紙 各部門別活動計画による。

(4) 施設・設備整備計画・実施報告

〔桜の聖母短期大学〕

1. マリアンホール冷温水発生機更新工事
2. マリアンホール変電設備改修工事(第1期)

3. スクリーン購入
4. レーザープリンター購入

〔桜の聖母学院中学校・高等学校〕

1. 地下高圧コンデンサー他更新工事
 2. 電子黒板型プロジェクター購入
- 建設仮勘定 中学校校舎増改築工事

3. ノートパソコン購入
4. 電話設備更新工事

〔桜の聖母学院小学校・幼稚園〕

1. 小学校1階西トイレ改修工事
 2. 幼稚園防犯カメラ設置工事
- 建設仮勘定 小学校校舎改築工事

3. サーバー機器入替
4. 児童タブレットPC・収納キャビネット購入

〔マルガリタ幼稚園〕

1. 園庭遊具一式

令和6年度(2024年度) 短期大学事業活動報告

桜の聖母短期大学 学長 坂本真一

■ 短期大学としての事業の柱

短期大学は「教育内容の充実」「入学定員の充足」「地域貢献の推進」を事業の柱として掲げている。
「教育内容の充実」については、教学マネジメントに則り継続して点検・評価を実施し、改善を図っていく。
専門教育課程に教養科目を位置付けて見直した三つの方針に基づく教育課程が完成年度を迎えたことを踏まえて点検・評価を実施し、教育課程・授業科目の改善を図る。
学習成果を焦点とする査定の手法を確立する。
「入学定員の充足」は、各学科・専攻ともに充足率100%を目指す。
各部署及び各学科専攻が連携し組織的に戦略的な学生募集活動を進めていく。
「地域貢献の推進」については、地域連携センターを軸として開放講座や出前講座等の地域貢献を効果的に展開する。
各学科・専攻の専門性を活かした地域貢献を展開する。

【到達度・自己評価について】Ⅳ:想定を大きく上回る成果 Ⅲ:想定を上回る成果 Ⅱ:想定を下回る成果 Ⅰ:想定の本格的見直しが必要

令和6年度事業計画	部署	令和6年度年間報告	到達度
1. 教育内容の充実			
① 魅力ある学科・専攻・コースづくり			
満足度を高める授業や教育活動を継続的に実施するために、学科内FDを強化している。 3コースの特徴を明確化し、学生には学生にキャリアオーナーシップの意識を持たせていく。 CE独自の学習成果を明確化にするために各コースの独自の取組を模索、試行に臨む。	キャリア教養学科	1. 学科内FD強化の方法 ・相互授業参観(前期)の振り返りシートの工夫(自分の授業に応用できることの欄の設置) ・英語科目については資格試験の受験時期を勘案し、来年度の開講時期を変更する手続きを行った。 ・コアメンバーが集まり、実践している大学についてカリキュラムの内容分析をしながら、本学の実情に合わせた科目や開講時期、カリキュラムの検討の実施。 ・学生の自己評価調査(前期)を実施、結果を可視化した。 2. CEの学生募集強化の方策 ・資格試験合格者数の見える化を図るため、資格試験の推奨及び合格者数把握の担当者の決定 ・OCへの高校生勧誘に対する在学生へのプレゼント企画の実施 ・ビブリオバトルラジオにおけるビブリオバトル生放送など、CE独自の学び×学習成果×マスコミ発信 ・学生との動画作成に関しては、「特別研究発表会」の1年生の運営委員の学生たちが教員別のコメント動画を作成する予定である。	Ⅲ

教育内容を点検し、改善・充実を図る。	生活科学科	各専攻にて、アセスメントポリシー構築に向けた試行を行うことを確認した。	Ⅲ
栄養士資格取得の基礎分野のベーシックフィールド、専門資格取得可能な各フィールドの学習成果の質向上を図り、栄養士実力認定試験の結果充実を図る。入学者増を目指し、特別研究グループを軸とした地域貢献の情報発信を活発化する。	食物栄養専攻	・2年生に関しては全員が進路決定に至ったが、今年度は、栄養士を希望しない学生の割合が増大したことから、今後、栄養士としてのキャリア教育の見直しが必要と考えられた。次年度の「食物栄養基礎講座」においては、キャリア教育に関する項目を増やすとともに、次年度2年生からは「食物栄養教養特講」においても、栄養士として、そして社会人として必要な知識・技術の再確認を行い、「質の高い栄養士養成」に努める。 ・質の高い栄養士養成、につなげるために、学修成果の指標明確化に着手した。学外実習の実習先からの評価を学生にフィードバックする、自己評価を行わせる、などを、これまでの、外部試験による評価に加えることで、指標とする。 ・地域連携の在り方について、今年度に限らず、これまで「商品開発」に偏りがちであったので、それ以外の方策についても、地域からのニーズに合わせて検討していきたい。	Ⅲ
令和6年度カリキュラムの見直しを行い、CAP制の強化と「こども音楽療育士」資格取得可能なカリキュラム改訂を行った。実践教育の場を増やし、教育内容の充実を図り、なお学習成果の質保証を目指す。高大連携の取り組みや、積極的な情報発信を行っている。	福祉こども専攻	1. 保育基礎演習や特別研究等の授業で親と子のひろばやさくらっこ広場を活用し、地域貢献を推進すると共に、高大連携の軸となる様に広報していくことを確認した。 2. 中学校の職場体験の利用を推進していくことを確認した。 3. 令和7年度は、学習成果についての獲得状況の測定、評価を、①保育実習・幼稚園教育実習評価(実習先評価・自己評価)、②特別研究Ⅰ・Ⅱ評価、地域貢献(さくらっこ広場、課外活動)、③保育士資格・幼稚園教諭二種免許状を除く資格取得状況(ネイチャーゲームリーダー、自然体験活動指導者、幼児体育指導者資格、こども音楽療育士)で測定することとし、前期期間中の定例会で検討をし、後期より試行的にスタートすることを確認した。 4. 各教員の研究時間や科学研究費等外部資金獲得に向けた時間、また成果発表の場の確保に努める。 5. 実習指導委員会で共通する評価(ルーブリック)の作成を検討し、作成後は各実習終了後にルーブリックに基づき自己評価を行い、系統的に成長と学習成果を実感できるものとしていくことを確認した。	Ⅲ

② 魅力ある教育課程の編成・実施 ・令和6年度よりこども保育コースでは、「こども音楽療育士」資格取得科目の新設を含むCAP制により対応したカリキュラムを開始する。 ・令和4年度改訂教育課程について、各学科専攻別に点検・評価・改善を継続する。 ・学科・専攻によるFD活動を支援・推進し、授業の質向上を図る。	学務部	・こども保育コースで開始された新カリキュラムについては、専攻における中間評価、授業改善アンケート結果を踏まえると、1・2年次の科目の順序性、バランス等は適性かと思われるが、次年度は学習成果を可視化することで、さらにカリキュラムの評価、分析が出来るようにしたい。 ・教育内容の充実を図るため、新たにキャリア教養学科の「キャリア教養特講Ⅳ」、食物栄養専攻の「食物栄養教養特講Ⅳ」、70周年記念事業関連の海外研修、国内研修(教養特講Ⅰ～Ⅲ)、について各学科、専攻と共に検討し、次年度開講(「教養特講Ⅰ」は令和8年度)することとなった。次年度開始してからの評価は今後実施することとなる。 ・今年度はFDとして、本学独自のWeb方式による授業改善アンケート、各学科・専攻におけるカリキュラムマップを活用した教授ポートフォリオの作成、各学科・専攻における授業の改善を図るためのFD研修会、各学科・専攻における公開授業・授業参観、短大全教職員研修・短大新任教職員研修を実施することが出来た。 ・プレースメントテスト、到達度テストについては、各学科専攻でも検討し、次年度からキャリア教養学科でのみ実施することとなった。	Ⅲ
③ 学生が主体的に判断し行動するための支援 ・各委員会のメンバーが主体的に活動し責任を持って実行するための支援を行う。 ・学生会、B&L委員会の連携の強化を図り、毎月の定例会を主体的に企画、運営を行う。 ・せいたんナビ実行委員会によるオープンキャンパスの運営及び学内情報発信の支援を行う。 ・多様な学生への支援を充実するため、定期的に健康サポート委員会を開催し、協議する。	学生支援部	・学生会各委員会のメンバーが主体的に活動し責任を持って実行するための支援を行う目標については、各委員会で差はあるものの支援を行うことができた。学生が主体的に活動ができるための声掛け等の働きかけについては今後も継続し検討しながら支援していくこととした。 ・学生会、B&L委員会の連携の強化を図り、毎月の定例会を主体的に企画、運営を行うという目標については、委員会メンバーが毎月定例会を実施しそれぞれの役割を果たしていた。 ・せいたんナビ実行委員会によるオープンキャンパスの運営及び学内情報発信の支援を行う点については、やりがいを持って活動している学生が多くほぼ達成できた。しかし活動日が土曜日のオープンキャンパス回数が多いためアルバイト回数が減る等の課題もあった。概ね現在の通りで満足だが、グッズ開発や模擬授業参加に積極的な学生もおり次年度に向け学生のアイデアをより活かしたかつ同を計画したい。 ・多様な学生への支援を充実するため、定期的に健康サポート委員会を開催し情報の共有とチームでの関わりを実践できた。今年度は医療機関とも連携し学生の支援を実施した。	Ⅲ

④ 多様な学生の進路実現 ・センターから各教員へ働きかけを頻回に行い、学科専攻コースとの情報共有体制を引き続き強化する。 ・2就職支援講座は一般企業・公務員に関しては整備を行い、一定の成果を挙げているので、編入支援体制についても更に強化する。 ・全員の個別面談を各学科専攻コースの就活本格化時期に合わせて実施。随時面談も体制をさらに強化する。☑ ・人員不足を補い支援の質をさらに向上させるため、ICT活用等による業務の効率化を図る。	キャリア支援センター	・今年度も1名を除いて就職希望者の就職がない、また、編入学試験の結果も堅調であったことから、評価をIVとした。 ・電子ツールの導入促進などで業務の効率化に努めてはいるが、人員削減・予算削減がそれ以上のペースで進んでいる。 ・そのような状況下であり、今年度は、キャリア支援部門については、いわゆる「手のかかる」学生が増加した中でも、結果的に就職率を高い水準で維持することができた。本学内だけでなく、ハローワークや、就労移行支援事業所との連携も強化した。特に、こども保育コースにおいては、近年なかった「専門職への就職率100%」を達成した。これは教員とキャリア支援センター職員との密な連携に負うところが大きい。 ・CE,Dにおいても、同様に、教員との一層密な連携体制を構築し、引き続き、就職率100%を目指し、さらに、学生にとって満足度の高い進路決定ができるように、支援体制を強化していく。 ・前述の外部機関(ハローワーク、就労移行支援事業所など)とも、適時、連携していくほか、学生支援部・健康管理室との情報共有も強化していきたい。 ・今年度改めて浮き彫りになった懸案事項として、図書館司書としての就職は極めて困難であることを、どのように、学生に伝えていくのか、という点がある。図書館司書を熱望する学生が、たとえ非正規雇用、会計年度雇用、であっても、希望の職になかなか就けないという現実があったので、CE学科とも、学生募集の段階から、しっかりと方向性の共有をする必要があると考える(CE学科のみ、今年度は就職率100%とならなかった)。	IV
--	-------------------	---	-----------

2. 入学定員の充足			
①前年度見直した入学定員に合わせ、入学定員充足率100%を目指す。 ・入学定員は、2024年度入試からCE60名、D30名、CH40名、と改めた。 ・広報の効率化・強力化を図るため、部科長会と連携して体制を見直す。 ・すべての入試方式で前年度を上回る数の志願者を獲得する。 ・「編入支援」「社会人入試制度」など、これまでアピールできていなかった本学の魅力を改めて発信する。 ・受験生及び高校教員へ独自奨学金選考の周知を強化し、40名以上の志願者獲得を目指す。 ・オープンキャンパスへは3年生だけでなく1,2年生の参加を獲得できるよう、プログラム・広報とも改めていく。 ・広告宣伝費の大幅な削減に伴い、TVCM等は使えないので、既存のWebツール等を活用したマーケティングを強化していく。 また、これまで使えていなかった分析ツールなども活用していく。 ・桜の聖母学院高校及び重点校との関係強化を最重要課題とし、高校訪問の体制見直し・強化を行う。	広報センター アドミッション センター	・入試に関しては、今年度からWeb出願システムを導入し、大きなトラブルもなくシステムを動かしていくことができた。次年度からは大学入学共通テストのWeb出願もはじまり、そちらのシステムとの連携も進めることで、さらなる業務の効率化につながると期待する。また、事務職員の交替があるが、現在、引継ぎについては丁寧に進めている。退職者/新任者とも、ミスの許されない入試業務を今後も着実にこなせるように引継ぎを行っている。 ・より一層、受験をしやすくなるように、次年度から「学校推薦型選抜(公募)II」の試験を設定することとした。これにより、早期の進路決定ができなかった高校生の獲得につなげる。 ・広報業務に関して、予算の大幅な削減と費用対効果の見直しのため、スクラップビルドに努めたが、多業務を抱えながら進めたため、中途半端に終わってしまった。 ・高校訪問/ガイダンスに関しては、前年度よりもさらに質量ともに増加させた。 ・オープンキャンパス参加者は全体としては減少してしまったが、今後の入学につながると予想される1,2年生の参加は過去数年間と比して増加となった。上記、高校訪問/ガイダンスも含めた「種まき」は上手くいっているの、それを結実させられるように今後も広報体制を強化していく。 ・ただし、「広報できる素材」、すなわち、教育研究内容の質と、学生生活の充実あってこそ「広報」であるので、他部署ともしっかり連携しながら今後進めていきたい。 ・業務の分業化と適材適所、という点も改善しながら進めていきたい。	II

3. 地域貢献の推進			
①「次創支援」をキーワードに、地域連携センターと本科との連携を密にし、履修証明プログラムSOC(桜おとなカレッジ)申込者を30名を目指し、本科科目の社会人受講生を増やす。 ②ふくしま市産学官地域連携プラットフォームの取組を通し、存在感のある地域貢献を実現する。また、同PFの中期計画の見直しを経て整理された課題に基づき具体的な連携の可能性を検討し、協働できる部分を整理する。	地域連携センター	1. 生涯学習推進委員会の実施時期について前倒しで実施を心掛け、短大全体の大学開放に資する議論を適時適切にできるようにした。「花園リバイバル計画」においても生涯学習センターを桜の聖母学院全体に波及できる位置に置く構想が浮上しており、今後は地域におけるリカレント教育の拠点として本学の生涯学習センターを発展させる道筋を検討していくフェーズに突入していくものとする。センターの名称についても、こうした大局的な視点を持って適切な議論を重ねていくことが望まれる。 2. 「書評大賞」について令和7年度以降本格実施することが決定した。こうした図書館や書籍に関心を持たせる契機となるような取組を継続的に行うことで、図書館の利用者数の増加を引き続き実現させる。 3. ボランティアの依頼に対するフィルタリングが奏功し、学生が自発的に関心を持って掲示を確認することが浸透しつつある。今後もこうした情報に学生が自発的にアクセスし、学外で活躍することを支援することが必要である。 4. 令和6年度も「私立大学等改革総合支援事業」が採択されたほか、福島市産学官連携プラットフォームそのものが鹿児島銀行に事務局を置くプラットフォームよりヒアリングの対象となるなど、プラットフォームの活動を通じて本学の存在感を発揮する場面が増えている。また、「ワークdeフェス！」の取組実施後の学生の声からも、今後も市内の大学生が相互に交流する機会を設けることの意義が確認されており、地域連携センターとしてこうした外部機関との接続を引き続き維持していく必要がある。	Ⅲ

桜の聖母学院 中学校・高等学校令和6年度重点事業実施報告

令和6年度においては、本校の伝統的な強みである「英語」教育を根幹としながら、ITやAIがさらに進化する次世代において社会に貢献出来る女子生徒を育成するために、「感性」、「創造」、「論理的思考」の3つのキーワードを基に、以下の1-4の項目においては令和3年度策定の諸事業を継続し、特にICT活用授業を推進する。

また、中高部門の花園町移転にともなう新しい教育体制のグランドデザインを早急に策定する。

1. 生徒の全ての可能性を十分伸ばすことを目指します。

One Challenge -Discover yourself- 事業

中学生、高校生を対象とした様々な分野におけるコンテスト（・・甲子園、ポスター募集等）が毎年数多く行われている。

自主的に応募し、自らの「感性」と「創造」力を発揮し素晴らしい成果を上げている生徒も見受けられるが、まだまだ少数である。

そこで、自らの興味関心が何処にあるのかを探り、隠れた才能を自覚・開花させる意味において、中学校全学年、高校1、2年生に年1回、学校外のコンテストに応募させる。

[2024 ワンチャレンジ報告](#) [Google フォームで回答](#)

【中学】 チャレンジ実施率 48.2%

<チャレンジ概要>

学生制服フォトコンテスト・マーチングの県北大会、東北大会 銀賞
弓道の昇段試験・バレエのコンクール・習い事の習字で昇段試験 等

【高校】 チャレンジ実施率 43.5%

<チャレンジ概要>

青少年スピーチコンテスト、アスペンジュニアセミナー参加
高校生未来サミット参加、交換留学に応募
福島市役所主催「福島市の未来について考えるワークショップ」に応募
第34回日本クラシック音楽コンクール（声楽）本選出場
福島市明るい選挙啓発ポスターコンクール（優秀賞） 等

2. 生徒自身が自分を変容させる力となるように、その準備を行います。

高大連携事業の推進

・上智大学、福島大学、福島県立医科大学、会津大学、福島工業専門学校、
桜の聖母短期大学等

福島大学見学会 高校1年生 全員参加

桜の聖母短期大学 高校1年生 探求活動のスタートアップ 三瓶千賀子教授

高校2、3年生 保健指導

山下 敦子準教授

上智大学 カトリック高等学校連携協定授業

2024 高校生タイ・スタディーツアーに高校2年生1名参加
NPO アースウォーカーズ ドイツ高校生交流プロジェクトに1名参加
生徒の学力向上に資するための、教員の授業力向上研修

- ・令和5年に導入した、一人一台の ChromeBook の活用と Google for Education Plus の効果的な利用方法を研究する。

福島大学附属中学校の公開（研究）授業に参加 数学・社会・ICT 活用等
本校の情報教育アドバイザー加藤先生の講演を3回企画し3回実施した
（ChromeBook の活用・Figjam の利用法等・Giga スクール世代の生徒対応）
ICT 関連のセミナーに参加

I nspireHigh 導入に向けての講習会

3. 生徒が責任ある社会人となるよう指導します。

地域の人材活用

- ・様々な分野の専門家の講演を企画、実施する。

中学 インターンシップ3日間

福島商工会議所の協力のもと福島駅周辺の郊外学習（事業所訪問）
遠足における職場体験（那須ハイランドパーク）

高校 高校生哲学対話「教育虐待について」
会津のスマートシティについての学習
ドイツの高校生とのオンライン交流

中学生対象の、6年後を見据えた進路指導の充実

- ・高校進路指導部との連携強化

中学生の高校授業見学会 みらい PASS ジュニア 高校進路指導部長の講話

社会活動への参加

- ・様々なボランティア活動等への積極的参加を勧める。

インターアクトクラブを中心に、「あしなが奨学生募金」、「荒川クリーンアップ大作戦」、「青少年スピーチコンテスト」、「子供食堂のボランティア」「福島ユネスコ（わたしの町のたからもの）」、「福島大学附属特別支援学校との交流会」等

4. 社会人として、社会の変容と地球環境の保護に積極的に取り組むように指導します。

世界的企業における働き方を学ぶ

- ・Google 日本本社見学会の実施

SDG s の観点を取り入れた授業の構築

- ・SDG s 教員・生徒向け講演会等

5. 中高部門の花園町移転にともなう様々な問題点の検討を行う。

高校部門においては、通信制課程新設の検討を行っている。

<別紙 資料 >

主要部門の令和6年度年度末反省報告と評価

教務・進路指導・生徒指導・広報・宗教・ICT 教育推進

令和6年度 教育活動重点事業報告

桜の聖母学院『幼小部門』

ミッションステートメント：全文

コングレガシオン・ド・ノートルダムの学校は1658年に始まる教育の歴史をもち、子どもたちが生きる意味を見出し、強い意志・勇気・愛をもって、社会の変革に寄与できる誠実で品位ある人に育て、世に送り出そうとしている。すべての教育活動は、子どもたちが自分に与えられた使命に気づき、自己実現をはかり、未来を拓いていく力を育てることを目指している。



四つの柱と学校(園)目標

イエスキリストの愛に学ぶ	神・他者・自分・自然と対話する心を育む	義と平和の実現のために働く人を育てる	卓越した学問の追求を目指す
幼：強い心、元気な子ども 小：強く、たくましい子ども	幼：みんなと仲良くできる子ども 小：自分と他の人を大切にできる子ども	小：世界のために働く子ども	幼：よく遊び、何でもやろうとする子ども 小：よく学び、よく考える子ども

R7 年度 重点目標	具体的内容	部門内評価 A…達成, B…未達成
「募集」に関する体制の見直しと新規方策の策定 ～1クラス20名以上の確保～	①園長、教頭による年中保護者との面談 ②同窓会との協力	①B…実施せず ②A…幼小発行物の送付、卒業記念品、菜園の寄付贈呈
1. カトリック精神とその価値観に基づく「心の教育」の継続と強化	①担任による「宗教」の授業 宗教主事による講義、講話 ②生活目標の全面的な見直し ③「こころの時間」(道徳)の実践記録一覧表作成	①A…継続実施 ②A…教育重点目標の見直しと職員会議での指導および情報の共有 ③A…実践記録の作成と次年度担任への引継ぎ
2. 本校独自の「英語教育」の確立	①授業記録をもとにしたカリキュラム修正、作成 ②英語基礎単語、基本英文の確認と整理 ③ネイティブ(ALT)との授業構成と改善	①B…実施せず ②B…実施せず ③B…実施せず 英語科担当教員の心身の不調による
3. 全教員における「教育力」の総体的向上	①R6 学校評価アンケート結果の振り返りと R7 学校経営への反映 ②年度内の研究授業 ③スクールカウンセラーによる指導の共有	①A…アンケート結果の教職員間の共有と結果に基づいた R7 学校運営への反映 保護者会での報告 ②A…国語、算数、宗教の研究授業および検討会の実施 英語のみ外部講師による模範授業の参観 ③A…担任を主とした情報および指導の共有 記録の共有(校長、教頭、養護)

2024年(令和6年度)マルガリタ幼稚園の事業計画 活動報告

マルガリタ幼稚園 園長 近江谷 綾音

I. 教育理念

- 1) コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会の教育「まことの自由への教育」
- 2) 学校法人コングレガシオン・ド・ノートルダムの「ミッション ステートメント」

II. 教育目標

- 1) 子どものために作られた環境の中で、安心して生活できる環境を提供し、援助する。
- 2) 子どもが一人でできる喜びを実感できる環境を提供し、支援する。
- 3) 子どもが「自分で考え、判断し、行動できる」環境を提供し、一人ひとりの自己実現を支援する。
- 4) 集団生活の中で、自分が「人の役に立つ」喜びを感じる環境を提供する。

III. 重点目標

1) 園児募集の強化

- ① マルガリタ幼稚園の強みや特色をまず教職員がよく理解をし、発信する。教育目標に加え、広い園庭やドライブスルーなどの取り組みなども含め。
→8月の「調布市私立幼稚園入園フェア」に向けて、職員会議にて、幼稚園の強みや特色を教職員で共有をした。また、参加する教員を3名から6名へと増員。また、他園での教職員経験をしている教職員や、実際に自身の子どもを他園に入園させた経験のある教職員も増えたので、より客観的な部分でのマルガリタ幼稚園の魅力を知るきっかけになっている。
しかしながら、入園説明会の申込者数は増えたが、園児獲得に直結はしなかったので非常に残念。
※令和6年の「調布市私立幼稚園入園フェア」のブースの様子は、別紙参照

	会場入場者数	入園案内配付数
令和5年	310組	175枚
令和6年	305組	230枚

- ② 教職員の危機意識を高め、教職員一人ひとりが「幼稚園の看板」となっていることを意識して、行動や言動、態度にきめ細かく配慮をする。
→全員で同じ研修を受け、情報を共有する機会や、会議での話合いや雑談などの機会を増やしている。
「子どもの性教育について」「不適切保育について」「社会人のマナー講習」

③ 園内見学の日数の増加。

→前年度7日間ほどだったが、今年度は50日間に増やした。予約のない日もあったが、少人数で見学が出来た分、丁寧にご案内することが出来た。

④ 「園児数減少」をプラスとして捉え、ひとりひとりと向き合うクラス運営をしていく。

→どのクラスに関しても、1クラスの園児数が多い時には難しかったような内容の製作物に着手したり、保育内容を変えたりしている。
また、子どもたちの声を拾って柔軟に対応する姿も見られている。

⑤ 「マルガリタひろば」と「おそとひろば」の回数の増加と1歳児の囲い込みのため、

プログラムを主に2歳・満3歳児用と考えていたが、1歳児～2歳児のものへと見直しを検討。

→コスモの担当職員と相談し、1歳児～2歳児用の安全面に気を付けたプログラムへと変更した。回数を月1から月2に増加。

1時間ずっとということが難しいので、前後に自由遊びをしたり、担当職員による紙芝居や大型絵本の読み聞かせなどをしたりしている。

⑥ 2歳児親子教室「ひよこ組」の存続、1歳児親子教室に変更するなどの検討。

→令和7年度に向けて、再度検討中。2歳児親子教室「ひよこ組」を希望する保護者もいる。

満2歳児（1歳児）ふれあい子育て教室「ことり組」の立ち上げの検討。（東京都「多様な他者との関わりの機会の創出事業費補助金」活用）

⑦ 「預かり保育」の通常保育時、長期休暇中の日数増加の実施。

→4月の始業式前からの預かり保育を実施。

また、満3歳児からの進級児のみ「在園児」と見なし、他の新入園児より早く預かり保育の実施を求められたので令和7年4月より実施予定。

⑧ HP、調布私立幼稚園入園フェア、コサイトHP、インスタグラム、フェイスブック、調布市市報等を活用し、継続的な発信強化。

→コサイトとの契約で、保育内容や行事について外部への発信をしている。インスタグラムに関しては、もっと強化すべきであるが、見ている保護者の方も増えている様子。

市報で未就園児のイベントや情報を得ている保護者も一定数いるので、引き続き掲載をしていく。

また、2月以降に初めて参加する、という未就園児も増えていたので、情報を継続的に発信していくことが望ましいと感じた。

⑨ 幼稚園の行事「マルガリタこどもまつり」「移動動物園」「作品展」等へ未就園児を招待。幼稚園を訪れる機会の創出。

→「マルガリタこどもまつり」は、会計上締め切りが早かったこともあり、参加人数は少なかった。

「移動動物園」は外部（未就園児クラス含め）の参加は65組だった。「作品展」は、在園児とその家族のみの実施とした。

⑩ 安心・安全対策の発信および、施設のメンテナンス、きれいさを維持。

→園内見学や入園説明会で説明した。他園に比べて、園内や室内が綺麗との声が上がっている。シルバー人材および、交通誘導の方の手も借りてきれいさを維持することに勤めている。

2) 2歳・満3歳児「いちご組」4年保育の定着

① 内外へのPR

→調布市内で、4年保育を実施している幼稚園が1園増えた。

ただ、当園においては、現在21名→来年度11名と希望者が減っているという現状あり。

② 教育内容の充実―体操の回数の増加、参加行事を増やす（聖母のつどい、じゃがいもほり、保育参観、笹もやし、こども夏まつり、観劇会、運動会、手づくりおもちゃバザー、移動動物園、七五三、クリスマス遊戯会、体操参観、作品展、誕生会など）

→今年度、体操の時間を増やした。6月からの参観と体操参観も他学年同様行うことにした。

③ 保護者からの要望の検討―保育時間、預かり保育、配置人数

→預かり保育に関しては、改善に向けて引き続き検討中。慣らし保育（11時までの保育）の実施日の縮小を検討。

また、令和7年度は、常勤の教職員を2名に増員し、保育内容の充実を図る予定。

④ 年間、月ごとの指導内容を明確にする。

→令和7年度に作成予定。

3) 人事について 2025年（令和7年度）の人事の具体案作成と採用基準の準備

① 退職予定者・育休明けの予定者―常勤職員・非常勤職員

→加配の非常勤職員がすぐに退職してしまうことがあったため、加配の非常勤職員が定着しなかった。

常勤職員の令和6年度末の退職予定者はなし。

また、令和6年度まで産休・育休を取得していた常勤職員が2名、令和7年度4月より復職決定。

令和7年度の満3歳児クラスの園児数が減少したことにより、1名非常勤職員の契約を解除した。

令和7年度は、常勤の教職員が担任8名、主任、満3クラスに1名、未就園児クラスに1名の配置となった。（園長、事務を除く）

また、新卒者を1名新規採用とした。

4) 労務管理について 常勤・非常勤の働き方改革の推進

① 勤務時間・時間外労働・有給休暇日数取得のルール of 遵守と管理。

→ 常勤・・・月初めの朝礼・終礼時を活用しルールの遵守、計画的時間外勤務の推進を図り、ルールが徹底されている。

非常勤・・・年度初め、雇用条件通知書を渡す時に動機付け。12月～1月有給休暇残日数、計画的取得も含めて、労使で確認。

3月に入ってから有給休暇をとる職員が多く、そのほかの体調不良の欠勤者と重なり人手不足になってしまった。

令和7年度は、1学期のうちから計画的に有給休暇取得を検討する。

※10日以上の有給休暇付与者は、最低5日間取得

5) 教職員の研修回数の拡大に向け、立案と実施を図る。

① 新任教育一園長、主任

→新卒者はいないが、保育の進め方に関してたびたび助言することはあった。共通理解していないことが浮き彫りになる場面があった。

ピアノの弾き方や言葉遣いなどの細かい部分の指導が行き届かないことがあった。

令和7年度は、新卒者もいるので細かく確認をする必要がある。

② カトリック幼稚園、マルガリタ幼稚園の基本的な教育理念に関する研修一園長、園外講師

→引き続き、シスター渡邊に依頼。今年度は、基本的な「カトリック教育、カトリック教育の子ども観」を中心に研修を依頼した。

③ 教育内容・幼児教育者としての研修一園外講師

→夏休み中、そのほかの時間に共通の研修を受ける機会を増やした。特に、「不適切保育」「性教育」に関して、共有することが出来た。

また、「今学びたいもの」をお互いに出し、共感しあいながら研修内容を検討している。

④ 日常的な発信物、提出物などのこまやかな指導一園長、主任

→文章力や国語力など、人により差が大きくなり時間を費やすことが多かった。文章力や国語力を上げるための勉強の場を設けることを検討。

直して指摘することだけでは、身につかない。

6) 教育内容の充実

① 宗教と英語の新カリキュラムの作成（各学年ごと）

→引き続き、英語は課外・正課ともに好評。今年度は、正課の英語参観を実施することが出来た。

宗教は、担当者が変わり、より一層静かに心を落ち着かせて話を聞く機会となっている。ただ、実施回数が減った。

② コロナ禍以前の園行事の見直し、実施と廃止

→おもちゃつきは廃止となった。英語参観の実施は、コロナ前へと戻した。

また、クリスマス遊戯会に関しては、入れ替え無しの全学年のプログラムを見てもらえるような形をとったので、いつもより多くの方に他学年のプログラムを見ていただき、成長していく姿を見てもらえたのではないかと思う。

7) 危機管理マニュアルの見直しと作成、訓練の回数拡大

- ① 備蓄庫の備蓄品の新規購入

→担当者が備蓄品を新規購入。卒園時に持ち帰る仕組みへと変更。(年少組については、東京都私学財団の補助活用)

- ② 備蓄品交換年次リストの作成

→12月、1月で作成。補助金(東京私学財団)活用(年少児対象)

- ③ 危機管理マニュアルの簡易版の作成とHP掲載一火災・地震・不審者対応

- ④ 感染症対応マニュアルの更新版(対処方法の変更への対応)作成と周知を図る。

次年度に持ち越し

8) 教職員の業務負担軽減策に着手する。

- ① 園務システム活用 欠席連絡、預かり保育申し込み・料金徴収等を簡素化する。

- ② PC台数増(園務システム導入時の補助金活用)による教職員のPC活用範囲を拡大する。

- ③ コーポレートカード導入の検討。立替払いの削減による出勤業務の簡素化をする。

本年は、見積もり・情報収集
次年度に持ち越し。

9) 園施設修繕補修計画、園庭遊具交換計画の策定 予算措置。

- ① 保育棟鉄部・配管塗装(令和5年に見積もり制作)→④と連動し、次年度以降予算化し実施

- ② 木製アスレチック遊具老朽化に伴う新規の入れ替え(都補助金上限66万円)→実施、園児たちや小学生にも好評。

- ③ 園庭環境継続整備(塩化カルシウム散布:砂埃対策年2回)→実施

- ④ 保育棟・管理棟の修繕計画(長期)策定。靴箱改修(園児用・教職員用)等。→12月―3月で作成予定

令和6年9月に新設したアスレチック

